■基礎教育カリキュラムの特色■

■カリキュラムポリシー

基礎教育では、社会、文化、自然、技術、歴史、芸術など、デザインやアートと密接に関係するとともに、大学生としてふさわしい教養と、社会で活躍するために必要な基本的知識を身につけることができるさまざまな教養的科目を、以下の3つの区分に分け設置している。幅広い視野、総合的な判断力、豊かな創造力、社会性を養い、大学や社会で必要とする多様な知識を主体的に学び、自ら考え、判断できる力を養う。

1) 学修基礎（大学で学ぶ基本を身につける）

「大学入門セミナー」では、大学で学修していくために必要な基本的な学修方法、著作権や法律など、社会的な知識やスキルの基本を身につけることができる。

また、日本語は日常のコミュニケーションだけでなく、専門的知識や技術を習得するという本学での学修にとって必要不可欠なツールであることから、読解力、語彙力、文章構成力など日本語を読み書きし、表現する基本的方法を学び、日本語能力を鍛える。とくに1年次前期の「日本語表現Ⅰ」は必修であり、習熟度別クラス編成で開講する。

2) 多様な教養科目（知識の森に分け入り未知の世界にチャレンジ）

「芸術・デザイン」「歴史・文化・社会」「科学・身体」の3つの区分は、大学生として身につけておくべき知識や技術に関する科目、デザインやアートを理解し、制作活動をしていくうえで必須の理論や歴史を学ぶ科目など幅広く多様な科目群で構成される。

これらの教養的科目は、専門分野に関する知識や技術を深めたり、広げたりする一方、未知の分野の知識が新たな発想や表現に結びつける機会を与えるために設定している。

3) グローバルコミュニケーション（世界で活躍するために）

現代では、日本語によるコミュニケーションだけでなく、外国語によるコミュニケーションも表現のスキルとして不可欠になっている。「外国語」区分には、世界で活躍するために必須の外国語の習得を中心とする科目が準備されている。

1年次前期の「基礎英語Ⅰ」は必修であり、習熟度別クラス編成で開講する。2年次には表現活動に必要な英語の知識を実践的に学ぶ。英語以外のフランス語、ドイツ語、中国語、ハングルなどの外国語は2年次から履修できる。これらの外国語の学修を通じて国際化の時代を生き抜くためスキルアップをはかる。

■カリキュラムフロー図 (2022年度入学生用)

基礎教育

		1年前期・後期	2年前期・後期
基礎教育		達成目標 「学修基礎」では大学で学ぶ基本を身につけ、4年間・卒業後のプランを見通す。 「芸術・デザイン」「歴史・文化・社会」「科学・身体」では多様な知識や学びの方法を身につける。 「外国語」では日本語を含めてグローバルなコミュニケーション能力を養う。	
○ 講義科目			
● 演習・実習科目			
知識・コミュニケーション	知識 (思想・歴史・経済・視覚・心理・理論等)	○西洋美術史 ○日本美術史	○色とかたち ○音楽の歴史と文化
	科学・技術・人間工学一般	○数学入門A・B ○物理学入門	○人間工学 ○科学と技術
	倫理力 (大学人としての基礎的な倫理)		○法学(日本国憲法を含む) ○知的財産権入門
	文章力・コミュニケーション力	○文章表現法A・B ○日本語表現Ⅰ・Ⅱ	
	語学力(日本語・外国語)	○基礎英語Ⅰ・Ⅱ	○現代英語 ○表現のための英語A・B ○英語コミュニケーションA・B
	健康・体力	○健康科学 ●スポーツ実技	○フランス語Ⅰ・Ⅱ ○中国語Ⅰ・Ⅱ ○ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ○日本語初級Ⅰ・Ⅱ ○日本語中級Ⅰ・Ⅱ
	方法論 (デザイン論・材料・構造等)	○神戸デザイン学 ○現代デザイン論	○デザイン美学 ○デザイン史
	思考力(論理・論述・発想等)		○博物館展示論
	批判力・客観的理解力		○芸術心理学 ○現代社会論
	一般的調査・分析・評価方法		○マーケティング論
その他	○スタディスキルズ		
専門的技能	表現力(描画・作図・撮影等)		
	造形力(造作・造形等)	●立体造形基礎	
	技術力(工学・モデリング等)		
	観察力・調査分析力		
	課題発見・テーマ設定力・構想力		
	コンピュータソフト作業・プログラミング	●デジタル造形	●デジタル彫刻
	メディア・ネットワーク力	○情報とネットワーク	
汎用的能力	計画力・問題解決力		
	創造力(作品や研究自体の独創性)		
	プレゼンテーション・展示・情報発信力	○博物館情報・メディア論	
	協働力	○教育心理学	
	技術的統合力		
	多様な個性への対応力(UD)	○生涯学習概論	
	社会的実践力	○アート・マネジメント	
	他分野総合力		
社会対応力	マネジメント力・指導力・管理力		
	開拓力・国際性		
	進路計画力	○キャリアデザインA・B・C	●インターンシップA・B